

一般質問

強く豊かなまちづくりを



市政本陽 鈴木重史

問 愛知川左岸道路整備の今後のスケジュールは。

答 東近江市道路整備アクションプログラムでも、都市計画道路八日市北部線として事業後期着手路線に位置づけ、整備主体が県にかかる部分は、ルート選定後に県と協議を進めていきます。

ていただき、場所決定しました。

寺幼稚園の今後については、地元の自治連合会関係者の皆さんと協議をしていきます。

問 野幼稚園の建設場所決定経緯と、寺幼稚園の存続は。

答 野幼稚園の隣地を地元土地改良事業により、施設用地として確保をし



今後の運営が注目されている寺幼稚園

広報紙の配布については、新聞折り込み、自治会配布、いずれの方法でも全戸配布を満たしていないことから、今後も検討を重ねます。

問 強く豊かなまちづくりのための歳入増と、歳出減の取り組みは。

答 地域の活性化と基盤整備の充実を図り、企業誘致の推進に伴う税収増と公有財産の有効活用や処分を実施し、収入増を図ります。

問 自治会組織体制および加入の現況と、市広報紙等の配布方法は。

答 住民が自治会の必要性を実感し、設立の機運が高まるよう、地区自治会連合会や住民の協力を得ながら推進をします。

未来のための真の投資を



無党派 坂口明德

問 インフルエンザ患者数のうち8割を15歳以下の子どもたちが占めている。予防接種の費用の一

部を助成するべきでは。当局独自の助成については、インフルエンザ予防接種がインフルエン

ザの発症を完全に防ぐものではないことから、現時点では検討をする予定はありません。

問 市民の健康維持や医療費の抑制のための、特定健康診査の受診率向上策は。

答 各保健センターでの集団健康診査や、未受診者への個別訪問などを実施していきます。

問 交通政策基本法が国会で成立したが、当市のちよこつとバス・ちよこつとタクシーなどを含む、今後の交通政策は。

答 少年高齢化が進む中で、公共交通の果たす役割がさらに重要性を増す

と認識しています。今後は、基本計画の策定や財政支援など、国の動向を注視しながら、他の交通事業者との連携を図りつつ、公共交通の維持・発展に努めていきます。

特別支援教育・発達支援は行政の責務だ



無党派 横山榮吉

問 新年度予算で特別支援教育・発達支援への積極的な取り組みを。

答 26年度の特別支援教育に関する施策は、小中学校での特別支援教育支援員の配置や、支援方法について考える発達障害サポート事業、専門家を派遣し授業改善に向けた助言を行う事業などを計画しています。

問 新年度予算で特別支援教育・発達支援への積極的な取り組みを。

して、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善、または克服するために適切な教育的支援を行い、個々の自立に向けた指導の充実を図っていきます。

また、特別支援学級に在籍する児童生徒については、個々の状況を把握

発達支援に関しては、27年4月から在宅3歳児の通所療育事業では、療育日を週2日から5日に増やし、療育時間も2時間から4時間に延長します。

次に、保育所などを利



市民の頼り ちよこつとバス

一般質問

基盤整備の充実を



東近江市民クラブ 西崎 彰

問 大中地区の排水ポンプ場の国営施設応急事業への早期着手を。

答 国営施設応急対策事業の27年度着工に向けて事務を進めており、排水

ポンプの更新や建屋の耐震化、幹線排水路の一部改修を予定しています。

また、排水機場の電源施設については、かさ上げによる洪水対策を検討



ポンプの老朽が心配な 琵琶湖干拓新田排水機場

しています。

問 大中地区の排水路の整備は。

答 大中地区集落の北側の排水路は、通常時琵琶湖へ直接排水しています。しかし、洪水等により琵琶湖の水位が上昇すると逆流が生じる事から、樋門を設けて防ぐ構造となっています。このため、樋門を閉じた状態で雨が降り続くと集落の排水路に流れ込む事になります。具体的な対策として、排水路の断面を大きくする改修工事や緊急排水ポンプの整備が考えられます。



市内3カ所にある通所施設 ことばの教室

用する障がい児の支援策は、集団生活に適應するための支援として、保育所等訪問支援事業を新たに重点項目として実施します。

また、継続事業として、東近江総合医療センターでのカウンセリングや、学童保育所への巡回相談事業を行うなど、今後も関係機関や関係課と連携するとともに、職員を増員し支援体制の整備充実を図ります。

問 自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍している生徒の進路状況は。

答 24年度に卒業した生徒は12名で、全日制高等学校5名、単位制高等学校2名、高等技術専門学校1名、高等養護学校へ1名が進学しました。

また、1名が児童福祉施設に入所、1名が企業に就職、1名が在家庭となっています。

地域の特色を活かしたまちづくり



東近江市民クラブ 西澤 由男

問 蒲生地区の諸団体が中心となって取り組んでいる、エコまちプロジェクトに支援を。

答 食・エネルギー・ケアの3つの分野に、あらゆる社会的な視点から取り組むこのプロジェクトは、環境省の評価も高く、市としても引き続き応援をしていきます。

問 蒲生SICの更なる活用のためにも、蒲生工業団地の操業率を上げるためにも、地区計画で企

問 愛知川河口の土砂、流木やゴミの撤去は。

答 関係自治会からの要望を受け、県に要望しています。

現在、阿弥陀堂町から新宮町にかけて河川内の竹木伐採について、入札の準備をしています。

問 業誘致推進は。また、市道学校横山線の完成までに、交通量緩和のため迂回路が必要と考えるが。

答 蒲生工業団地については、製造業の誘致に努めています。

また、迂回路になる市道川合橋横山線は舗装改修で対応します。

問 ちよこつとバス・タクシーの

問 利用状況と今後の課題は。

答 1か月間の利用者数は、バス1万2300人、タクシー2500人です。内、蒲生地区のタクシー利用は月80人です。

地域によって利用状況に格差があり、更なるPRが必要と考えます。

問 長峰団地の危機管理体制整備と、団地内に残る市有地の有効活用は。

答 長峰自治会には、一時避難場所確保のため、市有地を多目的広場として使えるようにしてきました。今後も可能であれば貸し付けや売却も含めて検討いたします。



市有残地を開放して避難場所の更なる確保を